

半導体漫遊記

湯之上隆

(346)

世界最大のファウンドリ TSMCが2024年2月24日、熊本県菊陽町で建設していたJapan Advanced Semiconductor Manufacturing (JASM)の開所式を開催した。

JASMの資本割合はTSMCが86.5%、ソニーが6%、デンソーが5.5%、トヨタ自動車が2%となっており、第1工場では28nm&16nmを、第2工場では7nm&4nmを、それぞれ製造する。その第1工場の実態が少しずつ明らかになってきた。以下でその詳細を説明する。

JASMの第1工場には現在約1000人の社員がおり、その内訳はTSMC本社から派遣された台湾人約300人、ソニーから出向者(または転籍者?)が約200人、中途採用や大

学新卒の社員が約500人となっている。つまり第1工場には約300人の台湾人と約700人の日本人が在籍しているわけだが、この両者の間には大きな壁が存在している。それは言葉の壁と技術

TSMC熊本第1工場の実態

JASMは持続可能でない

の壁の二つである。

まず台湾から派遣された約300人の技術者は28nm&16nmの技術の経験があり、それを基に第1工場

ソニー出向者をはじめとする700人の日本人は、日本語は通じないかもしれないが、英語で仕事ができると思ってJASMに来たはずである。しかしJASMの共通言語は、英語ではなく台湾語である。

もしかしたら台湾人5人と日本人5人の打ち合わせは、英語になるかもしれない。しかし台湾人10人、日本人2人の会議は間違いなく台湾語になるだろう。そ

して工場内の多くのやりとりは、英語ではなく台湾語になる。要するに台湾人と日本人の間には、大きな言葉の壁が存在する。

次に技術の壁であるが、28nm&16nmを習得している台湾人に対して、ソニーをはじめとする日本人はせいぜい65nm&40nmの技術しか

分らない。中途採用者も事情は同じであり、大学新

卒者にいたっては半導体の技術は未経験ということになる。

このようなJASMの第1工場において、台湾人からソニーなどの日本人はどう見えるかというところも通じない、技術も何も知らない、役立たずということになる。従って、重要な技術開発の仕事させるわけにはいかず「夜勤で装置のお守りでもしている」ということになるらしい。

一方、ソニーの技術者にとってみるとどういうことになるか? 恐らく一流大学を卒業し、人気企業のソニーに就職し、10年ほどかけてエース技術者になった者も多いはずだ。それが台湾人から「役立たずのポンコツ扱い」を受ける羽目になっている。

従って、いくらJASMの給料が高いと言っても、

この状態には我慢できないかもしれない。それ故、退職するものもチラホラ出始めているらしい。このような実態からJASMの第1工場は持続可能ではないと思いはじめた。そして、この

状況は第2工場でも何ら変わらないだろう。そのため4~5年後にJASMは、稼働不能に陥っているかもしれない。(微細加工研究所・所長)

TSMC熊本工場

TSMCから派遣された台湾人:約300人
(台湾語、28~16nmの技術)

言葉の壁・技術の壁

ソニーからの出向・転籍:約200人
(日本人、65~40nm)

中途採用・大学新卒:約500人
(日本人、65~40nm?)

TSMC熊本の第1工場の内情